

非常事態における談話ストラテジー

—パリ同時多発テロ事件と Charlie Hebdo 襲撃事件の François Hollande 大統領の演説—

松田 里沙、楊 鶴、津田 香織、水落 理子、木田 剛

1. はじめに

演説のような準備された発話では、語彙の選び方による発話内容に加えて、リズムやポーズなど発話様態まで緻密に計算され、細部の違いが聞き手の受ける印象を大きく左右する。そこで本稿では、人称表現を含めた語彙選択、談話における発話リズム、ポーズの3点に的を絞り、これらの特徴が政治演説において談話ストラテジーとして用いられる意図や聞き手に与える効果について考察する。分析対象は2015年11月13日に発生したパリ同時多発テロ事件に対する François Hollande 大統領が行った演説と、2015年1月7日にパリで発生した Charlie Hebdo 襲撃事件に関して同じく François Hollande 大統領が行った演説とインタビューである。

2. 先行研究

Charlie Hebdo 襲撃事件に対する大統領談話を対象にした楊・松田・水落・木田 (2015)では、we コードとしての一人称複数形、繰り返しによるリズム、話者の眉の動きを分析した。これらの要素に共通しているのは、国民に対して団結を訴える部分を強調していることであり、演説の主目的である「聴衆へ訴えかける」ことに談話ストラテジーが集中していると結論付けた。本稿では、人称表現とリズムの分析をさらに進めるとともに、新たにポーズについて取り上げる。ここでそれぞれの要素に関する先行研究について述べていく。

2.1. 政治演説に現れる一人称複数形

楊他 (2015)では、テロに対する政治演説に現れる一人称複数形が指す意味は文脈により異なり、主に「国民」「フランス(国)」「政府」を表すことを明らかにした。また「フランス」を表すものとして « la France » と « la République » があり、共起する語や出現位置により使用傾向が異なっていた。

分析について、楊他 (2015)では、フランス国民を示す一人称複数形や la France などの表現を we コードとして捉えて分析したが、前回の結果から、必ずしも一人称が we コードになるとは限らないという結論を得た。Gumperz (1980)によると、コードスイッチングによる情報の強調、変調は参加者の気づきによって価値を持つとし、文脈的な情報はプロソディ(韻律)、統語構造、語彙選択と関連する共有知識によって成り立つものである。したがって、本論文では we コードという括りで範囲を規定せずに、前回の分析でも扱った自己を表す表現の意味分析と使用傾向に拡張して分析を行う。

2.2. 反復とリズム

ここで言う反復とは、同じものを繰り返すこと (*répétition*) である。この反復には、音や文字の反復、語句の反復、言語形式の反復等、さまざまな形が含まれる。

語句の反復とは、単に同じ語句を繰り返すことを指す。語句の反復は書き言葉よりも話し言葉で使われる傾向にある。また、繰り返される回数の多さは必ずしも意味の強さを保証するものではない。軽々しく繰り返される言葉は、むしろ意味を薄め、耳障りになる場合もある。さらに繰り返される単語は同一の意味で用いられているとも限らず、同じ語句を繰り返すことによって、その同一性ではなく、かえって差異が強調されることがある。

それに対し並行は、言語表現において同じ形式やパターンの繰り返しを指し、構成の反復の下位カテゴリとして位置づけられる。パターンの基本は文、節、句の形を取るが、これに音声や意味の繰り返しを加わるとより鮮明なものになる。

そして音の反復は同一の音の繰り返しを指しており、反復される音は基本的に音節レベルであるが、母音、子音のみもある。音の反復が知覚されるためには、その音が出現する位置の規則性が不可欠の条件となる。また音の反復の効果は、聞き手が意図して音の反復を認識しない限り、その効果はないということが前提として置かれている。音の反復については以下のようにさらに細かく分類できる。

- ・同音たてつづけ (*paréchèse / allitération*) : 同一の音素を持つ語を重ねること。音をちりばめるようにして、何度も同じ音を出現させる (ex. *un papa pas patient*)。
- ・多重音反復 (*multisonance*) : あるまとまりをもった音素群を繰り返すこと。母音や順序を変えての繰り返しも含み、印象の上で似通っている音群の繰り返しとして知覚される。
- ・同母音 (同子音) 反復 (*assonance/consonance*) : 同じ母音 (子音) を繰り返す。
- ・語頭 (語末) 反復 (*rime*) : 語頭 (語末) に同じ響きの音を繰り返す。

以上の他にも反復の種類は多く存在しているが、ここでは主に大きなカテゴリを挙げることにする。

石黒 (2007) は、反復 (繰り返し) にはメッセージを聞き手に「刷り込む」強い浸透力があるとし、その機能を「どもる・ことばを探す・広がる・勢いがつく・執着する・たたみかける・回帰する・際立つ」の8つに分類した。「どもる」とは、ここでは言語障害の一種である吃音を指しているのではなく、反復によってことばが出てこないもどかしさがにじむが、そのことが相手に強い感情を伝えることにつながるという反復の持つ機能のことである。たとえば、松尾芭蕉の「松島や ああ松島や 松島や」は、「松島や」という言葉しか出てこないことで絶景の感動を読み手に伝える、というようなものである。「ことばを探す」とは、反復によって内容を正確に伝えようとする、ことば選びの試行錯誤の過程が垣間見られることである。「広がる」とは、反復が時間的な持続性や空間的な拡張性を持つことであり、「勢いがつく」とは、反復が3回以上続くとリズムがうまれ、勢いがつくということである。この勢いは反復の最後の部分が受け止めるため、その

部分に焦点があたる。「執着する」とは、繰り返されたことばへのこだわりが強く、くどいまでの統一感を生むということである。「たたみかける」とは、反復が真実味を増し、説得力を高めることを指し、回帰するとは、あいだに別の要素が挟まれる繰り返しには回帰感が生まれるということである。喩えるならば、繰り返しがサンドイッチのパンの部分のように置かれ、具が挟まれることによって文章にまとまりを作るようなものである。最後の「際立つ」とは、類似した内容の繰り返しでも、その一部に対照的な語句が含まれていると、繰り返し自体が対照的な印象を与えるようになるということであり、たとえば俳句で用いられる対句法のようなものである。

以上が反復の基本機能として定義されているが、反復はその性格上、情報としての価値が低い場合もある。また度を越えた繰り返しはかえって耳障りとなり、効果を減じることもある。

2.3. ポーズに関する先行研究

杉藤 (1989 a&b) によれば、ポーズは従来、話し手にとって息継ぎの時間とされてきた。しかし実際には息継ぎではないポーズも存在し、それが言語学研究において重要な役割を果たすと言われてきた。さらに、その後の研究で、杉藤 (1997) は、ポーズは息継ぎに必要なばかりではなく、聞き手にとっても話の内容を記憶し、理解する上では重要な役割を果たしていることを明らかにした。

ポーズには、無声ポーズ（以下、ポーズと記す）と有声ポーズ（以下、フィラーと記す）がある。ポーズは、単語と単語の境目や文の切れ目に見られ、その出現場所によって文の解釈に意味的变化が起きると思われる。また、ポーズの頻度や長さによって聞き手に与える印象が変化することがある。一方、フィラーは、日本語では「えー」、「うーん」、フランス語では « euh », « bah » などがある。これらのフィラーは、語彙の選択や考えをまとめたりする時に起こる言い淀みである。

ポーズは発話速度と密接な関係があり、発話状況によりその長さや頻度が変化する。発話速度が速くなるとポーズの時間は短くなる傾向がある。その場合、話し手は早口で話すため聞き手がついていけない場合があり、聞き手の理解を困難にしてしまう恐れがある。一方、発話速度が遅くなるとポーズの時間は長くなる傾向が多い。このような発話はリズムを伴い、聞き手に強い印象を与えることができ、より理解されやすくなる。

ポーズの長さ、頻度、またその役割は伝達メッセージの種類によって変化する。また、発話者の心理状況によって変化することもある。自然発話状況 (*parole spontanée*) の発話文では、フィラーがある言い淀みが多く見られるが、公式な演説の場合、原稿が予め用意されていることが多いため、言い淀みの頻度が少なくなる。Duez (1999) では、句 (*syntagme*) の中に見られるポーズを「修辭的ポーズ (*pause rhétorique*)」と呼び、これらのポーズは故意または予想外のポーズであり、なんらかの意味合いが含まれていると述べている。

政治演説とポーズの関係について、Duez (1999) は発話者の地位との関連性を指摘している。Duez (1999) は、1981年に第21代フランス大統領に就任した François Mitterrand の就任前と就任後の演説を比較した。就任前の演説 (1974年) では、発話速度が速く、制限時間内にできるだけ

多くの言葉を使い自分の考えを国民に伝えようとしているため、短いポーズが多く見られた（ポーズ平均値 600ms）。それに対して、就任後の演説では、ゆっくりとした発話になり、長めのポーズが観察された（ポーズ平均値 970ms）。その後、1988 年に行われた大統領選挙では、François Mitterrand は大統領であり、候補者でもあった。この時の演説で観察されたポーズ平均値は 790ms であり、1974 年と 1988 年の中間の値にあたる。この結果から、権力が強い地位にあればあるほど、ゆっくりとした発話となり、長めのポーズとなる。表 1 に、Duez (1999) の分析結果を示す。

表 1 François Mitterrand 大統領の演説ポーズの比較（筆者作成）

就任前	1974 年	ポーズ平均値 600ms
就任後	1974 年	ポーズ平均値 970ms
次の大統領選挙	1988 年	ポーズ平均値 790ms

この研究を受けて、Béchet, Sandré, Hirsch, Richard, Marsac & Sock (2013) では地位の違いとポーズについて、François Hollande の大統領選挙でのテレビ討論を分析し、選挙戦で勝ち進み、地位が上がるにつれてポーズが長くなることを明らかにした。さらに、Frédéric, Hirsch, Bechet, Barkat-Defradas, Didirkova, Maturafi & Baklouti (2014) は、François Hollande の大統領就任前と就任後の演説に見られるポーズの分析を行った。就任前では、演説全体に対してのポーズの割合は少なく、短いポーズが多く見られた。就任後では、ポーズの割合が増え、より長いポーズが観察された。これは、Duez (1999) の研究で見られた François Mitterrand 大統領のデータと同じような結果になったと言える。これらの先行研究から見れば、ポーズの時間は地位と深く関わっていると言えるだろう。

しかし、Duez (1999) の言う「政治演説」とは一般に選挙演説のことを指すため、テロ事件に対する演説を分析する本稿とは状況が異なる。したがって、異なる場面に現れるポーズの違いが現れるのかどうか、本稿で検証する必要がある。

また、Mitterrand 大統領も Hollande 大統領も候補者であった時の談話は自然発話に近く、演説原稿がなかったと思われるが、その後の大統領としての演説では、両者ともゆっくりとした発話となっており、原稿があらかじめ用意されていた可能性を否定できない。そこから、仮説として以下のように立てることができるだろう。つまり、原稿なしにほぼ自然発話に近い状況で産出されている発話は、発話速度が速く、ポーズが多い傾向があり、またそのポーズも短い。一方、原稿が用意されている演説では、発話速度がゆっくりとなり、前者に比べてポーズが少なく、一回のポーズが長いという 2 点である。本稿ではこの仮説を基に、原稿の有無が異なる 2 種類のコーパスを比較する。

3. コーパス

本稿の分析には 3 つのコーパスを用いる（全文及び引用 URL は付録 1 に掲載）。1 つは 2015 年 11 月 13 日に発生したパリ同時テロ事件を受けて、その翌 14 日に François Hollande 大統領が行っ

た公式演説である。以下 PAO (Paris Attentat Officiel) と記す。残る 2 つは Charlie Hebdo 襲撃事件に関するもので、ひとつは襲撃事件の当日 (2015 年 1 月 7 日) の夜、大統領官邸という公式な場で行われた François Hollande 大統領による演説であり、もうひとつは事件当日に Charlie Hebdo 社の前で行われたインタビューである。前者の公式演説を CHD (Charlie Hebdo Discours)、後者のインタビューを CHI (Charlie Habdo Interview) と記す。演説とインタビューのどちらも国民に向けられたものであり、テロの概要、フランス政府の対応、そしてフランス国民を鼓舞する内容が語られている。

なお、本稿で使用するテキストは、大統領府ホームページで公開されている声明の原稿に、実際に発話された演説において現れた語句を補足したものであり、分析に使用するコーパスはこれにプロソディ¹を加えたものである。

また、ポーズを分析するにあたり ELAN² を使用する。ELAN ではミリ秒単位で言葉の長さを記録することができるため、ポーズを記述するのに適していると思われる。本稿の分析では、CHI と PAO の大統領演説の単語数、200ms 以上のポーズ、200ms 以下のポーズ、フィラーの 4 項目を記述する (起こしたデータは付録 2、3 に掲載)。

ELAN に入力した CHI の冒頭の発話を例として、図 1 に示す。

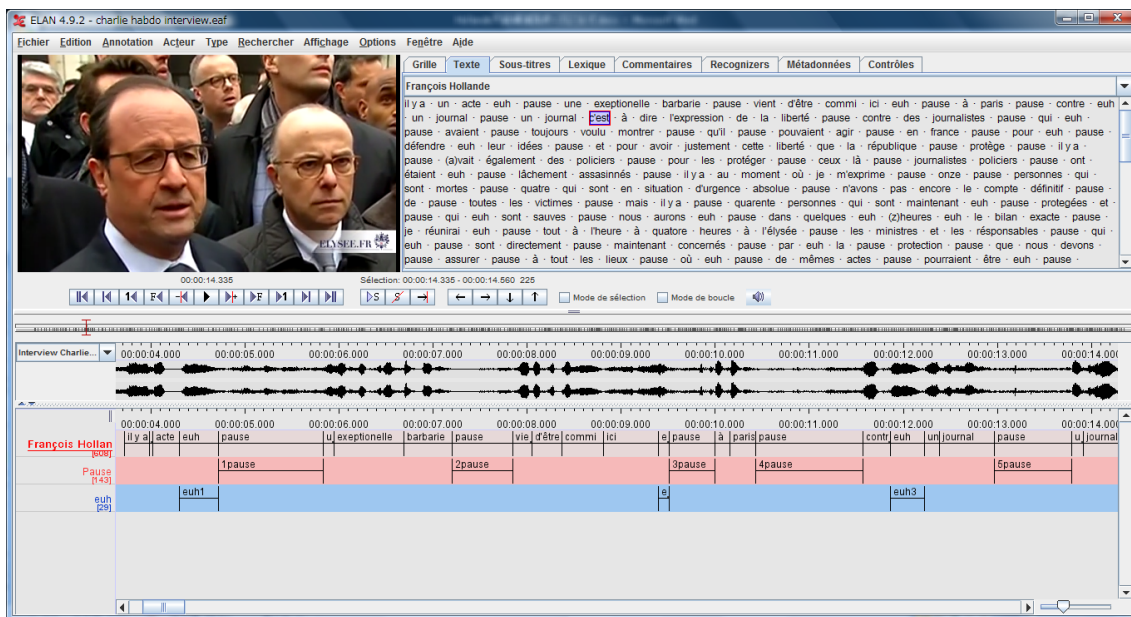


図 1 ELAN に入力した CHI (Charlie Habdo Interview)

¹ 音声データ記述法の凡例については稿末の付録資料を参照されたい。

² ELAN (<https://tla.mpi.nl/tools/tla-tools/elan/>) は、映像、音声ファイルを見聞きしながら、その中身に対して注釈をつけていくソフトである。(<http://12kai.com/elan/index.html>)

4. コーパス分析

4.1. 人称および自己を表す表現

4.1.1. 一人称複数形

まず、演説内に用いられる一人称を指す表現について見ていきたい。分析対象とするのは一人称複数形 *nous* と « *la France* » である。今回の演説では « *la France* » が特に頻出した。*la France* 自体は演説によく使われる語であるが、一人称複数でもその役割を担うことがある。そこで *la France* が使われた際の意図に着目し分析していく。

PAO 内で一人称複数形が主語として 4 回、目的補語として 3 回、所有形容詞として 5 回現れた。主語、目的補語の一人称複数形が現れる文脈は以下のとおりである (l. =ligne)。

(PAO-1.4) contre les valeurs que **nous** défendons partout dans le monde

(PAO-1.5) CONtre ce que **nous** sommes\ un pays libre ++ qui parle + à l'ensemble de la planète\\

(PAO-1.24-25) même si ++ le chagrin **nous** assaille

(PAO-1.25-26) la FRANce elle est solide + elle est active + la france elle est vaillante + et elle triomphera de la barbarie l'histoire **nous** le rappelle

(PAO-1.26-27) la force que **nous** sommes capable aujourd'hui de mobiliser/ + **nous** ++ en convainc

(PAO-1.27-28) ce que **nous** défendons c'est notre patrie

演説はフランス国民に向けて向けられているため、一人称複数に含まれるのは聞き手、つまりフランス国民であると考えられる。ここで言う「国民」は、共起する (PAO-1.24) *le chagrin* や (PAO-1.26) *l'histoire* から、悲しみ (=テロ事件) や歴史を共有する人々である。ここで *nous* を使うことで、それらを共有しない人を排除し「共有する我々」の団結を強める意図が読み取れる。また、(PAO-1.5) *ce que nous sommes* は後続する *un pays libre qui parle à l'ensemble de la planète* と同格であり、「我々の存在そのもの=自由な国」という図式が成り立つ。この提喩表現 (シネクドキ) により、人 (=nous) と国が結び付けられ、国民が国を構成する *nous* の一員として団結するように促しているように考えられる。

次に、所有形容詞と共起している名詞を以下に列挙する。

(PAO-1.10) **nos** concitoyens et **notre** territoire

(PAO-1.19-20) **nos** alliés

(PAO-1.21) **notre** pays

(PAO-1.28) **notre** patrie

ここでの名詞についての特徴として、*territoire*、*pays*、*patrie* といった国に関連する概念や実体を示す語彙との共起が多いと指摘できる。これらの「国」は全て *la France* の意味を指すが、同じ語の多用を避けるために表現を変える、フランス語談話にしばしば見られる現象だろう。これを

意味論的に詳しくみると、pays や patrie と共起する一人称複数所有形容詞は、フランスを構成する「国民」を指すと思われる。この「国民」の中には、大統領本人を含むすべての人が同様に等しい国民としてひとくくりにされており、その中では社会的地位による階層はない。その一方で、territoire には「領土」という意味から国家形成の物理的要素としてのニュアンスが含まれるため、前の二つの「国」とは意味論的スコープが異なる。また territoire と並置された concitoyens とも関係すると考えられる。concitoyens は「共有」を表す接頭辞 con-から「同じ地に暮らす市民」を意味するため、nos concitoyens を「国民の市民」と解釈すると意味が通らなくなる。したがって、ここでの nos は単なる「国民」を指すのではなく、大統領の視点が入った「政府」の意味と捉えられるだろう。しかしそれは国民と対立するものではなく、一人称複数形にすることで個人 moi と vous が「所有しあう」 nous となり、共有感覚の高まりを感じさせる。

また、nos concitoyens という語句が使われた文は以下の通りである。

(1.9-11) j'ai : + pris un décret/ pour proclamer le deuil national pour trois jours\\ TOUTES les mesures\\ ++ pour protéger nos concitoyens et notre territoire/ sont prises\\ dans le cadre de l'état d'urgence\\

最初の « je » は大統領である自分を指しており、大統領が取る措置は「市民と領土を守るため」と述べている。従って、ここでの nos、notre の視点は大統領としての視点が含まれていると言える。先に述べたように nos concitoyens における所有形容詞 nos は、大統領個人の視点が入った「政府」の意味で捉えられるが、notre territoire の一人称複数形を完全に「政府」としてしまうと、国の領土が政府だけのものと捉えられかねず、いささか権威主義国家の様相を呈してしまう。したがって、ここで nous は国家を形成する要素という意味を帯びた「国民」と捉えた方が適当であろう。同じ「国民」を示しうる一人称複数形であっても、話し手の視点が異なる場合、一人称複数形に含まれる意味もまた異なる。今回は、大統領による発話であることから、大統領としての視点と一国民としての視点が一つの演説の中に混在していると言える。

4.1.2. CHD との比較

ここまでの分析を CHD に現れた一人称複数形と比較する。前稿（楊他 2015）では、一人称複数形の主語について、「国民」「フランス」「政府」の三つの意味に大別できるとした。今回の分析でもおおむねそれに合致する結果が得られたが、「国民」の中にも「政府」による国家の意味合いを帯びる場合があり、3 つの意味の間に境界があるのではなく、意味の程度が段階的であると考えられる。

また、特に CHD では「団結」に関する表現と一人称複数形の共起が観察された。しかし今回の分析を見ると、団結の意味を持つ語句が全く見られなかったのに対して、今回は「我々の国」という表現が特に多く見られた。つまり、演説の中で直接的に団結について言及するのではなく、団結の意味を間接的に表現するストラテジーが用いられたと捉えられる。

パリ同時多発テロ事件にしても Charlie Hebdo 事件にしても、自己を表すための「国」に関する表現が多様であることがわかる。そこで次に、PAO における「フランス (国)」の表現を見ていく。

4.1.3. La France

PAO の中で最も高い頻度で生起する名詞は *la France* であった (217 語 (異なり語数) 中 8 回³)。国家元首の声明という性格上、この語が頻繁に用いられること自体は不自然ではない。しかし、テキスト内においてこの語の生起する位置に注目すると、後半に集中していることがわかる。短いインターバルの中で同じ語句が繰り返し用いられる場合、代名詞や別の語句に言い換えられることもありうる。フランス語の場合、同一の語句が近接して繰り返されることは避けられるという修辭的傾向もある。このような中で、形を変えずに語が複数回反復されるということは、*la France* という語彙がなんらかの意図を持って発話されているのではないかということが推論できる。その意図について、*la France* がこのテキストにおいて持つ価値に注目し考察していく。

まずはテキストの後半に限らずに、*la France* という言葉がテキストの中のどこで用いられているのかを見てみよう。以下は *la France*、あるいはこの語を受けた代名詞 *elle* がテキスト中に用いられた箇所である。(*la France* 及びこの語を受けた代名詞 *elle* は下線で示す)

- (1.3-6) c'est un acte de guerre/ qui a été commis/ par : une armée terroriste/ Daech/ + une armée djihadiste contre la france\ contre les valeurs que nous défendons partout dans le monde\ CONtre ce que nous sommes\ : un pays libre ++ qui parle + à l'ensemble de la planète\\
- (1.16-18) la FRANce\ parce qu'elle a été agressée lâchement\ +++ HONteusement\ +++ VIOlemment\+ la france sera impitoyable ++ à l'égard des barbares de Daech\\
- (1.18-20) elle agira [avec tous les moyens] dans le cadre du droit\ ++ [et] (avec) tous les moyens + qui conviennent\ et sur TOUS les terrains + intérieurs comme extérieurs\ en concertation avec nos alliés/ qui eux-mêmes\ sont visés par cette menace\ terroriste\\
- (1.23-25) la FRANce est FORte et même si elle peut être blessée/ elle se lève toujours\ et rien ne pourra l'atteindre même si ++ le chagrin nous assaille\\
- (1.25-27) la FRANce elle est solide + elle est active + la france elle est vaillante + et elle triomphera de la barbarie ; l'histoire nous le rappelle/ et la force que nous sommes capable aujourd'hui de mobiliser + nous ++ en convainc\\
- (1.28-29) ce sont les valeurs d'humanité/ et la france saura prendre ses responsabilités et je vous appelle à cette unité indispensable ++
- (1.29-30) VIVE la république et vive la france\\

³ テキストの異なり語数のカウントには、textalyser (<http://textalyser.net/>) を使用した。

1.29-30 は（大統領に限らない）政治家が演説を終える際の定型表現であるので、分析の対象から除外する。残った 16 例は、*la France (elle)* がそれぞれ文でどのような役割を担っているかという観点から 3 つのタイプに分類することが可能であるように思われる。

表 2 *la France* の役割のタイプ別分類

A-他者の行動を受けた主体	B-自ら行動する主体	C-ある性質や状態を持った主体
<i>la France</i> = 行動の対象、受動文の主体、間接目的補語	<i>la France</i> = 動作動詞(能動文)の主体	<i>la France</i> = 名詞文の主体、静態述語文の主体
<ul style="list-style-type: none"> • c'est un acte de guerre [...] contre la france • la france parce qu'elle a été agressée • elle peut être blessée⁴ • rien ne pourra l'atteindre 	<ul style="list-style-type: none"> • elle agira dans le cadre du droit, avec tous les moyens ... • elle triomphera de la barbarie 	<ul style="list-style-type: none"> • la france sera impitoyable⁵ • la france est forte • elle peut être blessée • elle se lève toujours • la france elle est solide • elle est active • la france elle est vaillante • la france saura prendre ses responsabilités
4 例	2 例	8 例

タイプ A 及び B と C は、動的事態か静的事態(性質・状態)かで、タイプ A と B とでは、*la France* が能動的主体か、受動的主体かという点でそれぞれ対立する。このように分けてみると、*la France* はその静的特徴が問題にされる発話が約 57%を占めることがわかる。つまり、このテキストにおいて *la France* はある性質や状態を有するものとして多く描かれているということになる。

では、*la France* についてこのテキストで描かれる性質や状態とはどのようなものか。共起している表現を検証すると、「強さ」を含意する語が多い (*fort / solide / actif / vaillant / se lever toujours*)。反対に弱さを表す語には *être blessé* の 1 例のみであり、しかも *pouvoir* を伴って非断定的な言い方がなされており、弱さの度合いは大きくない。

以上の観察から、*la France* はそれに関わる動的事態が言及されつつも、「強さ」を含意した静的特徴がこのテキストにおいては多く示される傾向があると理解される。

次に、*la France* が別の名詞に言い換えられている例に見てみよう。この演説の中では、*pays* という語が 4 回出現し、*la France* の置き換え表現として機能する。出現箇所を以下に示す。(pays に

⁴ *elle peut être blessée* は *être blessé* に注目すれば行動の受け手として、*pouvoir* に注目すれば性質を持つ主体として分類できるので、どちらのタイプにも含める。

⁵ *impitoyable* は他の形容詞と比べて補語に対する行動が含意されているが、対象が言語化されていないので、ここではタイプ C とする。

は下線を付ける)

- (1.2-3) [...] face à la guerre/ ++ le pays doit prendre les décisions/ appropriées\
 (1.3-6) c'est un acte de guerre/ qui a été commis/ par : une armée terroriste/ Daech/ + une armée djihadiste contre la france\
 [...] un pays libre ++ qui parle + à l'ensemble de la planète\
 (1.8-9) les familles sont dans le chagrin la détresse le PAYS est dans la peine\
 (1.20-21) dan:s cette période si douloureuse\
 si GRAve ++ si Decisive+ pour notre pays\ j'en appelle à l'unité [...]

2行目の le pays は、文脈上 la France を指しているとも考えられるものの、国を総称的に指す語ともとれる。ここでは前者の可能性を踏まえて分析の対象に含めることにする。先の表に照らして pays がどのような主体として描かれているかによってこの4例を分類すれば次のようになる。

表3 pays の意味別分類

A-他者の行動を受けた主体	B-自ら行動する主体	C-ある性質や状態を持った主体
	<ul style="list-style-type: none"> • face à la guerre, le pays doit prendre les décisions appropriées 	<ul style="list-style-type: none"> • un pays libre qui parle à l'ensemble de la planète • le pays est dans la peine • Dans cette période si douloureuse, si grave, si décisive pour notre pays, j'en appelle à l'unité
0例	1例	3例

言い換え表現である pays を用いた場合でも、性質や状態が問題となる場合が多いが、そのどのような性質や状態が問題になるかに注目すると、悲痛や深刻さといった否定的な状態を表す語と共起している例が2例ある。先に la France が強さという静的特徴をもつ語と多く結びつけられていることを述べた。つまり pays という語が否定的内容、la France は強さという肯定的内容といった「棲み分け」がなされていると考えられるのである。なお、言い換え表現の pays が肯定的表現とも共起していることを踏まえるならば、pays に否定的内容を引き受けてもらうことで、la France という語が否定的表現と共起することが回避されているとみるのがより正確だろう。このような否定的な内容を別の表現に置き換えるということは、特別なことではないと思われる。たとえば、「死ぬ」を場面によって「亡くなる」や「この世を去る」に言い換えて直接的にならないようにすることと同じだろう。

ただし、la France が否定的な語とは全く結びつかないということではない。たとえば、elle peut être blessée (1.23-24) や elle a été agressée (1.16) では、前述した強さという肯定的なイメージの対極

にある弱さが想起されうる。しかし elle での受け直しや peut être といった譲歩表現を用い、間接的な表現にしようという傾向が見受けられる。また他のいくつかの特徴も、la France が否定的な意味を持つ語と積極的に共起しないような工夫がこらされているように考えられるのである。

(1.23-25) la FRANCE est FORte et même si elle peut être blessée/ elle se lève toujours\ et rien ne pourra l'atteindre même si ++ le chagrin nous assaille\

下線で示した le chagrin nous assaille は、le chagrin l'assaille (=le chagrin assaille la France) と置き換えることが可能である。しかし、ここで le chagrin を引き受けているのは nous であり、ここでも、la France が悲しみという否定的意味をもつ語と共起するのが回避されているのである。上述した pays という語と la France のゆるやかな棲み分けとともにこの現象を考えると、la France は nous あるいは pays という異なる表現との対比の中で描かれているとみることができる⁶。ちょうど、2つの色を同時に見せられることで色の違いがはっきりわかるようになるのと同じように、対比されることで、それぞれの語の性質がより明確に描かれることにつながるのではないか。このことは次のように図示できる。

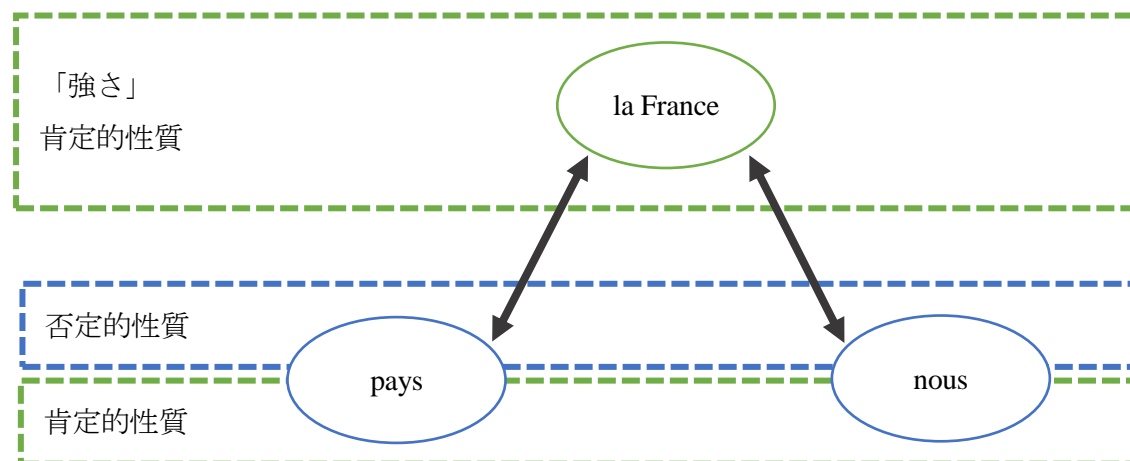


図2 「フランス」を表す語彙の性質

次の2例においても「強さ」と la France が積極的に結びつけられているのではないかという考察が適用できる。下線を伴う la France は いずれも elle で照応させるか、省略することが可能であるにもかかわらず、la France のまま繰り返されている。

⁶ La France とその対立関係にある pays、nous という語の性質そのものも議論の対象となるかもしれない。たとえば、pays は la France に対して総称性、抽象性を高めた言い方である。抽象化された語が否定的特徴を引き受け、対象を具体的に捉えた語が肯定的特徴と結びつくということは、聞き手の捉え方に対する一つの操作になりえないか。Nous は、人を指示する代名詞だが、それに対し la France は人ではない。代名詞は elle であり、「non-personne」(Benveniste 1966, 228) である。このことも pays と同じように分析していくことが可能ではないか。より詳細な分析は今後の課題としたい。

- (1.16-18) la FRANce\ parce qu'elle a été agressée lâchement\ +++ HONteusement\ +++
 VIolemment\+ la france sera impitoyable ++ à l'égard des barbares de Daech\
- (1.25-26) la FRANce elle est solide + elle est active + la france elle est vaillante + et elle triomphera
 de la barbarie

明確に elle での照応で十分である環境にあつて、la France が繰り返し明示されるということは、発話者が強さを表す表現と la France という語句の近接性を印象付けたいという意思の表れとみることができるのではないかと。

以上の考察を総合すると、最初に立てた問い（テキストの中で la France はどのような意図をもって使用されているのか）に対しては、次のように回答できる。La France という語はこの演説の中で、他者の行動を受ける主体あるいは自ら行動をとる主体として描かれうるものの、「強さ」という性質を持った主体として示される傾向にある。この性質を際立たせるために、言い換え、対比、反復といった修辭的手段がとられている。

4.2. 反復とリズム

4.2.1. コーパスにおける特徴

PAOにおける反復の種類については、語句の反復が3カ所（すべて3回）、並行が7カ所（2つ2カ所、3つ5カ所）、音の反復が5カ所（2回2カ所、3回3カ所）である。また出現位置については、出現の最初と最後に多く、中間に少ないことが観察される。このような出現位置になった理由として、最初に un acte de guerre の反復がされていることから、Charlie Hebdo 襲撃事件よりも深刻なテロ事件が起きてしまったことの重大さを強調するために、前半部分に反復が集中していると思われる。また後半は、団結へのメッセージ部分であるため、演説を聞き手の印象に残す目的から反復が集中して用いられていると考えられる。このような最初と最後に反復が多用されている構造は、3.3.で述べた反復の基本機能のうち「回帰する」に当てはまる。つまりこのような談話のつくりによって、演説にまとまりを持たせているのである。

楊他 (2015) では3回の反復について言及している。「3」という数字には安定感や充足感をもたらす働きがあり、また3回の反復は、適度に聞き手の注意をひいて印象に残すために、いちばん効果的な回数である。これらの理由から、談話内ではメッセージの刷り込みを行うために「3」に関する現象は、他の数字と比べて高い頻度で観察される。PAOにおいても3回の反復はいちばん多く、楊他 (2015) で扱われた CHD、CHI の分析と同様、聞き手の印象に残すテクニックとして用いられていると考えられるが、このコーパスにおいて注目すべき点は、反復の3回目に変化がつけられているという点である。（該当部下点線）

- (PAO-1.2-7) [c'est un acte de guerre ++++ et :: euh face à la guerre/ ++ le pays doit prendre les décisions/ appropriées\ c'est un acte de guerre/ qui a été commis/ [...] c'est un Acte de GUerre qui a été préparé ++ organisé ++ planifié de l'extérieur\ + et avec des complicités

intérieures/ que l'enquête permettra d'établir\ c'est un acte d'une barbarie absolue +++
 (PAO-1.18-19) elle agira [avec tous les moyens] dans le cadre du droit\ ++ [et avec] tous les moyens +
 qui conviennent\ et sur TOUS les terrains + intérieurs comme extérieurs\
 (PAO-1.23-26) la FRANCE est FORte et même si elle peut être blessée/ elle se lève toujours\ et rien ne
 pourra l'atteindre même si ++ le chagrin nous assaille\ la FRANCE elle est solide + elle
 est active + la france elle est vaillante + et elle triomphera de la barbarie

1.2-7 の c'est un acte de guerre や 1.18、1.19 の tous les は、反復の 3 回目のみ強い口調で発話されている。特に 1.2-7 の c'est un acte de guerre については、その直後に c'est un acte d'une barbarie absolue と続いている。une acte de guerre と une acte de barbarie が示す対象は同一 (=テロ行為) であるが、4 回目で言い方を変えている点において反復の効果の半減を避ける戦略と捉えられる。23~25 行目の la france は、反対に 3 回目のみ弱い口調で発話されている。さらに、反復の効果の一つである「勢いがつく」にも当てはまるように思える。このように 3 回目に変化をつけることで、聞き手が飽きない方略を動員し、3 回の反復の効果をさらに高めているのではないかと考えられる。

また PAO において 1 番多かった反復は、音の反復である。演説はほとんどが耳からの情報で認識される。したがって、聴覚に働きかけて印象付けを行おうとするため、語の音やリズムを用いたレトリックが多く用いられると推測される。また音の反復には、フランス語の特徴も関係していると考えられる。たとえば、対義語の構造や鼻母音、語末の é 等、フランス語独特のものには音に関するものが多く存在しているが、これらが意図的に用いられた結果、音の反復が多く生起しているのではないだろうか。

以上から PAO の特徴として、反復は談話の最初と最後に多いこと、3 回の反復の応用、音の反復が特に多いことが挙げられる。

4.2.2. 音の反復

ここまでの観察で、特に音の反復が数多く観察された。なぜ音に関するレトリックがこれほど出現しているのだろうか。

レトリックにおいて、文章がどう聞こえるかということはその効果に重大な役割を果たす。レトリックは詩と領域を共有していると言われている。詩は口述伝統からくるものであったため、長い詩を記憶にとどめるための方策として、音やリズムの技法が用いられてきたとされる。そのため、聞き手への印象付けを目的とする、音の反復が多く用いられると考えられる。さらに、聴衆が意識のレベルで言葉の意味を考慮している間に、スピーチの音はその下で心と情緒のレベルに働きかけ、多元的に聞き手に作用し、より談話内容を記憶に留めさせる効果を高めていると結論付けられる。

4.3. ポーズ

本節では CHI、PAO のポーズを単語レベルと文レベルに分けて分析を行う。単語レベルの分析では、単語数とポーズの回数から、演説全体におけるポーズの割合などを観察する。また、演説の構造をより詳しく分析するため、文レベルの分析としてそれぞれの演説を文単位で区切り、文末のポーズを観察する。

4.3.1. 単語レベル

Fraisse (1974) は、200ms 以下のポーズは生理的な息継ぎの時間とも取れ、認識されにくいと述べている。そのため、本稿では 200ms 以上のポーズのみを分析対象とする。CHI と PAO、それぞれの演説時間、単語数、ポーズ、フィラーを記述し、比較した。表 4 に示す。

表 4 CHI と PAO の分析データ (単語レベル)

	Charlie Habdo Interview (CHI)	Paris Attentat Officiel (PAO)
演説時間	3 分 39 秒	4 分 05 秒
単語数	436 単語	437 単語
200ms 以上のポーズ (ポーズの平均値)	101 回 (701ms)	119 回 (838ms)
フィラー (フィラーの平均値)	29 回 (223ms)	8 回 (201ms)
計	608 回	629 回

両演説の演説時間に 24 秒差があるものの、単語数⁷にはあまり違いが見られなかった。このことから、CHI に比べて、PAO の方がよりゆっくりとした発話になっていると考えられる。第 2 章で、インタビューのような原稿が用意されていない演説では、発話速度が速く、ポーズが多く、またそのポーズも短いものが多いという仮説を立てた。CHI はインタビューで原稿がないと思われるが、PAO は公式演説のためあらかじめ原稿が用意されていた可能性が高い。表 1 のデータ結果を見ると、仮説のとおり、CHI の方が発話速度は速く、ポーズも短いものとなっている。しかし、両者のポーズの回数を比較してみると、CHI は 101 回、PAO は 119 回と、CHI の方がポーズは少ないという結果になった。このことから、CHI は原稿なしにほぼ自然発話に近い状況で産出されているが、原稿が用意されている公式な演説に比べ、必ずしもポーズが多くなるとは限らない。むしろ、公式な場で行われた演説の方が、ゆっくりとした発話になり、しっかりポーズを置き、会話にリズムを出すことで、聞き手に強い印象を与えられると考えられる。

さらに、フィラーを見ると、CHI では 23 回、PAO では 8 回と、回数では大きな違いが見られたが、長さの平均値では、それほど違いはなかった。CHI はインタビューであったために、自分

⁷ ここで述べている単語とは、一まとまりの意味を持ち、構文上になんらかの働きを持つ最小単位を指す。

の考えや意見をまとめ、発話を確認、修正しつつ構築していくため、フィラーが多く観察されたと考えられる。一方、公式演説では、あらかじめ発話する内容が決まっっていて、次に発話する内容が予測できるため、言い淀みが少なく、むしろ発話のリズムを重視した演説となっている。リズムとポーズを組み合わせた公式演説では、聞き手に演説内容を強く印象づけ、ポーズを長く置くことで発話を記憶させる思惑があると思われる。

4.3.2. 文レベル

両演説を観察した結果、PAOの方がより落ち着いた発話であり、リズムもあると感じられた。また、一文一文がはっきりしており、その都度ポーズが見られた。文を数える上で、PAOは大統領府公式ページに記載されていた原文に沿って、句点《.》があるところで区切り一文とした。CHIに関しては、公表された原稿がなく、音声をもとに書き取ったコーパスであるため、切れ目であろうと思われる場所に、ネイティブ話者にチェックしてもらいながら文を区切った。ここでは、文の数、文末ポーズ、それ以外のポーズの3項目に分類する。

表5 CHIとPAOの分析データ（文レベル）

	Charlie Habdo Interview (CHI)	Paris Attentat Officiel (PAO)
文の数	24 文	17 文
文末ポーズの数 (ポーズ平均値)	23 回 (888ms)	16 回 (1289ms)
それ以外のポーズ (平均値)	78 回 (645ms)	103 回 (768ms)
計	101 回	119 回

文単位で観察すると、CHIはPAOより文の数が多かった。インタビューでは、瞬時に言いたいことを構築し発話することを要求されるため、一文が短くなり、文の数が増えたと思われる。文末ポーズでは、CHIでは24文に対して23回のポーズ、PAOでは17文に対して16回のポーズが観察された。

両者のポーズの平均値を比較すると、大きな違いが見られた。CHIでは、PAOに比べ全体的に短いポーズが観察された。このポーズは、単語レベルで見たポーズの平均値とほぼ変わらない。一方、PAOでは、ほとんどの文末に1秒以上のポーズが見られた。文末に長めのポーズを置くことで、発話にリズム感も持たせ、聞き手に自分が言いたいこと、伝えたいことへの理解の時間を与え、より強い印象を与えることができる。また、PAOではHollande大統領、一人による演説であるために、他人による会話の中断や割り込みなどが見られないことも、ポーズが長くなった理由の一つであると考えられる。

5. まとめ

本稿では、政治演説に含まれる談話ストラテジーを言語表現と、非言語表現の両面から分析した。言語表現では特に一人称複数と「国」に対する語彙の選択に特徴があり、各々に意図が含まれていることが明らかになった。またリズムやポーズに関しては、演説の中に作為的に取り込むことで、演説内容を強く印象付けようとする意図が見られた。

反復は単語、構造、音等のさまざまなレベルで可能であり、並行のような下位カテゴリも多く認められる。このような反復の主な効果として、「どもる・ことばを探す・広がる・勢いがつく・執着する・たたみかける・回帰する・際立つ」という8つが挙げられることを先に述べたが、これらには総じて相手にメッセージを強く刷り込む機能がある。反復は重ねてゆくことで強調され、効果を強めるが、むやみな反復は時に耳障りになり効果を薄める。反復も、レトリックとして意図的に取り入れられている場合もあれば、言い直しの場合もあるため、その性質により異なるが、もともと反復の効果を引き出す回数は3回であると考えられる。また、スピーチや演説においては音の反復が多いが、これは聴覚情報が圧倒的に多いというスピーチの性格を利用し、脳と耳と心に対して働きかけることによって、より聞き手に内容を印象付けるためである。このような反復は、発話時にとっさに出てくるものではない。したがって予め準備された演説の中により多く観察され、インタビューや普段の会話といった、思考と発話を同時に行う場合にはあまり見られず、内容の刷り込みや、聞き手を飽きさせないための談話テクニックだといえる。

ポーズについて、単語レベルと文レベルに分けて考察した。単語レベルでは、発話速度が速ければポーズは短くなる傾向が見られた。また、発話速度が速くても、ポーズが多く出現するとは限らない。公的な場での演説こそ、ポーズをおき、会話にリズムをつけることで正確に聞き手に伝えようとする試みが見られた。さらに、インタビューのような自然発話では、発話者は考えや言いたいことを構築しながら発話しているためフィラーが多く見られた。文レベルでは、公式演説においてほぼすべての文末に1秒以上のポーズが見られた。文末でポーズを長く取ることで聞き手に考える時間を与え、発話を印象づけていると思われる。また、他人による会話の中断や割り込みがないという前提があることも文末ポーズを長くしている理由の一つである。

本稿では個々の談話ストラテジーの分析に留まったが、それらは一つの談話を構成する要素としてそれぞれ関わり合っている。言葉とリズム、ポーズとリズムの関係など、各々のストラテジーをまたいだ分析を今後の課題としたい。

参考文献

- 杉藤美代子 (1989a): 『講座日本語と日本語教育第二巻 日本語の音声・音韻 (上)』 明治書院。
——— (1989b): 『講座日本語と日本語教育第三巻 日本語の音声・音韻 (下)』 明治書院。
——— (1997): 『日本語の音声2 アクセント・イントネーション・リズムとポーズ』 三省堂。
石黒圭 (2007): 『よくわかる文章表現の技術—文体編—』 明治書院。
楊鶴、松田里沙、水落理子、木田剛 (2015): 「政治演説の含意と談話ストラテジー—シャルリー・エブド事件に対するオランダ大統領の演説分析—」 『筑波大学フランス語フランス文学論集』 第30号、pp.94-119。

Béchet, M., Sandré, M., Hirsch, F., Richard, A., Marsac, F. et Sock, R. (2013) : « *De l'utilisation de la pause silencieuse dans le débat politique télévisé. Le cas de François Hollande* », *Mots. Les langages du politique*, 103.
[<http://mots.revues.org/21460>]

Benveniste, É. (1966) : *Problèmes de linguistique générale*, Paris, Gallimard.

Duez, D. (1999) : « La fonction symbolique des pauses dans la parole de l'homme politique », *Faits de langues*, n°13, pp. 91-97.

Fraisse, P. (1974) : *Psychologie du rythme*, Paris, Presses Universitaires de France.

Frédéric, A., Hirsch, F., Bechet, M., Barkat-Defradas, M., Didirkova, I., Maturafi, L. et Baklouti, E. (2014) : « La pause : un paramètre variable dans le discours politique », 4^{ème} Congrès Mondial de Linguistique Française, *SHS Web of Conferences*, 8, pp.1217-1226.

[http://www.shs-conferences.org/articles/shsconf/pdf/2014/05/shsconf_cmlf14_01354.pdf]

Gumperz, J. (1982) : *Discourse strategies*, Cambridge, Cambridge University Press.

参考資料

パリ同時多発テロ事件演説 (PAO) :

http://www.elysee.fr/videos/declaration-a-l-issue-du-conseil-de-defense/?input-search=&input-date1=&input-date2=&input-theme=&input-type2=&search_index=8#content

Charlie Hebdo 襲撃事件演説 (CHD) : https://www.youtube.com/watch?v=Upk3_1Tb6VY

Charlie Hebdo 襲撃事件インタビュー (CHI) : https://www.youtube.com/watch?v=b4_5dUK71M4

付録 1 : パリ同時多発テロ事件に対する Hollande 大統領の演説

1 mes chers compatriotes + ce qui s'est :: produit ++ hier\ à paris et : à saint-denis près du stade de france/
2 [c']est un acte de guerre +++++ et :: euh face à la guerre/ ++ le pays doit prendre les décisions/
3 appropriées\ c'est un acte de guerre/ qui a été commis/ par : une armée terroriste/ Daech/ + une armée
4 djihadiste contre la france\ contre les valeurs que nous défendons partout dans le monde\ CONTre ce que
5 nous sommes\ un pays libre ++ qui parle + à l'ensemble de la planète\ c'est un Acte de GUERre qui a été
6 préparé ++ organisé ++ planifié de l'extérieur\ + et avec des complicités intérieures/ que l'enquête
7 permettra d'établir\ c'est un acte d'une barbarie absolue +++ à cet instant 127 morts/ et de nombreux
8 blessés\ les familles sont dans le chagrin la détresse le PAYS est dans la peine\ [et :] j'ai : + pris un décret/
9 pour proclamer le deuil national pour trois jours\ TOUTEs les mesures\ ++ pour protéger nos concitoyens
10 et notre territoire/ sont prises\ dans le cadre de l'état d'urgence\ les FORces de sécurité intérieure et
11 l'armée auxquelles je rends hommage\ notamment pour l'action qui s'est produite hier\ et qui a permis + de
12 neutraliser les terroristes\ l'armée/ et les forces de sécurité intérieure donc sont mobilisées/ au plus haut
13 NIVEAU de leurs possibilités\ [et :] j'ai veillé à ce que ++ tous les dispositifs soient renforcés à l'échelle
14 maximale\ des militaires/ patrouilleront +++ en plein paris + tout au long de ces prochains jours\ la
15 FRANce\ parce qu'elle a été agressée lâchement\ +++ HONteusement\ +++ VIOlemment\ + la france sera
16 impitoyable ++ à l'égard des barbares de Daech\ elle agira [avec tous les moyens] dans le cadre du
17 droit\ ++ [et avec] tous les moyens + qui conviennent\ et sur TOUS les terrains + intérieurs comme
18 extérieurs\ en concertation avec nos alliés/ qui eux-mêmes\ sont visés par cette menace\ terroriste\ dan:s
19 cette période si douloureuse\ si GRAve ++ si Decisive+ pour notre pays\ j'en appelle à l'unité +++ au
20 rassemblement ++ au sang-froid ++ et je m'adresserai au parlement réuni + en congrès à versailles lundi
21 pour rassembler la nation dans cette épreuve\ la FRANce est FORte et même si elle peut être blessée/ elle
22 se lève toujours\ et rien ne pourra l'atteindre même si ++ le chagrin nous assaille\ la FRANce elle est
23 solide + elle est active + la france elle est vaillante + et elle triomphera de la barbarie l'histoire nous le
24 rappelle/ et la force que nous sommes capable aujourd'hui de mobiliser + nous ++ en convainc\ mes chers
25 compatriotes/ ce que nous défendons c'est notre patrie/ mais c'est bien plus que cela\ ce sont les valeurs
26 d'humanité/ et la france saura prendre ses responsabilités et je vous appelle à cette unité indispensable ++
27 Vive la république et vive la france\

コーパス標記規則

+	pause (+ : 0.1sec)	ポーズ (+ 約 0.1 秒)
::	allongement vocalique	声の延長
/	intonation montante continue	上昇イントネーション
\(\\)	intonation descendante continue (discontinue)	下降イントネーション (終止的)
MOt	prononciation emphatique	強調発音
[XXX]	mot inaudible (inférence du transcripteur)	聞きとり困難な発話/作成者の推測
XXX	<i>1^{ère} personne du pluriel</i>	一人称複数形
XXX	<i>la france</i>	フランス共和国

付録 2 : パリ同時多発テロ事件の演説 (PAO) のポーズ

1. Mes chers compatriotes, {950} [euh 201] ce qui {355} s'est produit hier {1040} à Paris {1492} et à Saint-Denis près du Stade de France, {970} c'est un acte de guerre {2444} et [euh 184] {740} face à la guerre, {1090} le pays doit prendre les décisions {284} appropriées. {1336}
2. C'est un acte de guerre qui a été commis {619} par [euh 151] {739} une armée terroriste, {580} Daech, {1380} une armée djihadiste, contre la France, {1083} contre les valeurs que nous défendons {433} partout dans le monde, {699} contre ce que nous sommes : {947} un pays libre {1144} qui parle {508} à l'ensemble de la planète. {1920}
3. C'est un acte de guerre qui a été préparé, {1447} organisé, {1428} planifié de l'extérieur, {1283} et avec des complicités intérieures {384} que l'enquête {422} permettra {265} d'établir. {2393}
4. C'est un acte d'une barbarie {658} absolue : {1929} à cet instant {321} 127 {305} morts {1329} et de nombreux blessés. {1199}
5. Les familles {927} sont dans le chagrin, {289} la détresse, {1197} le pays est dans la peine. {1514}
6. Et [euh 193] {812} j'ai pris un décret {876} pour [euh 224] {427} proclamer le deuil national pour trois jours. {1217}
7. Toutes les mesures {1104} pour protéger {271} nos concitoyens {630} et notre territoire {202} sont prises {1314} dans le cadre [euh 156] {205} de l'état d'urgence. {1309}
8. Les forces de sécurité intérieures et l'armée - auxquelles je rends hommage, {671} notamment pour l'action qui s'est produite hier {929} et qui a permis {276} de neutraliser {743} les terroristes - {1285} l'armée {258} et les forces de sécurité intérieure donc sont mobilisées au plus haut niveau de leurs possibilités. {1500}
9. Et [euh 201] {229} j'ai veillé à ce que {375} tous les dispositifs {238} soient renforcés {603} à l'échelle maximale : {481} des militaires {526} patrouilleront {1091} en plein Paris {538} tout au long de ces prochains jours. {1269}
10. La France {605} parce qu'elle a été agressée lâchement, {1689} honteusement, {1069} violemment, {751} la France {346} sera impitoyable {820} à l'égard des barbares de Daech. {868}
11. Elle agira avec tous les moyens {818} dans le cadre du droit, {1174} et tous les moyens {358} qui conviennent {915} et sur tous les terrains, {687} intérieurs comme extérieurs, {859} en concertation avec nos alliés qui eux-mêmes {538} sont visés {411} par cette menace {361} terroriste. {1516}
Elle agira, dans le cadre du droit, avec tous les moyens qui conviennent et sur tous les terrains, intérieurs comme extérieurs, en concertation avec nos alliés qui eux-mêmes sont visés par cette menace terroriste.
12. Dans cette période si douloureuse, si grave, {1173} si décisive {609} pour notre pays, {1571} j'en appelle à l'unité, {1909} au rassemblement, {1197} au sang-froid {1412} et je m'adresserai {358} au Parlement {974} réuni en congrès à Versailles lundi {1269} pour [euh 299] rassembler la Nation dans

- cette épreuve. {1151}
13. La France est forte {871} et même si elle peut être blessée {591} elle se lève toujours {660} et rien ne pourra l'atteindre {617} même si {581} le chagrin nous assaille. {1012}
 14. La France {307} elle est solide, {577} elle est active, {842} la France elle est vaillante {686} et elle triomphera {355} de la barbarie ; {1078} l'histoire {498} nous le rappelle {658} et la force que nous sommes capable {444} aujourd'hui de mobiliser {500} nous en convainc. {843}
 15. Mes chers compatriotes, {574} ce que nous défendons {599} c'est notre patrie, {271} mais c'est bien plus que cela. {657}
 16. Ce sont les valeurs {577} d'humanité {485} et la France saura prendre ses responsabilités {770} et {235} je vous appelle à cette unité indispensable. {931}
 17. Vive la République {734} et vive la France.

付録 3 : Charlie Hebdo 襲撃事件のインタビュー (CHI) のポーズ

1. Il y a un acte [euh 415] {1115} d'une exceptionnelle barbarie {650} (qui) vient d'être commis ici [euh 116] {487} à paris {1142} contre [euh 364] un journal. {824}
2. Un journal, c'est à dire l'expression de la liberté {955} contre des journalistes {866} qui [449 euh] {850} avaient toujours voulu montrer {214} qu'ils pouvaient agir {750} en France {1134} pour [510 euh] {678} défendre [116 euh] leurs idées {784} et pour avoir justement cette liberté que la république protège. {1341}
3. Il y avait également des policiers pour les protéger. {1430}
4. Ceux là, {646} journalistes policiers {438} ont été [115 euh] {289} lâchement assassinés. {1327}
5. Il y a, au moment où je m'exprime {1541}, onze {1018} personnes qui sont mortes, {756} quatre qui sont en situation d'urgence absolue. {1263}
6. [nous] n'avons pas encore le compte définitif {1372} de toutes les victimes {1562} mais il y a quarante personnes qui sont maintenant [174 euh] {1237} protégées et {205} qui [128 euh] sont sauvées. {1934}
7. Nous aurons [226 euh] dans quelques [425 euh] heures [354 euh] le bilan exact. {677}
8. Je réunirai [122 euh] {577} tout à l'heure à 14 heures à l'élysée les ministres et les responsables {738} qui [224 euh] sont directement {296} maintenant concernés {824} par [132 euh] la protection {822} que nous devons assurer {1064} à tous les lieux où [146 euh] {640} de même actes {203} pourraient être [79 euh] {321} renouvelés {727} par les mêmes barbares {1265} et [266 euh] nous avons donc [229 euh] engagé le plan {315} vigipirate attentat. {1350}
9. Il y a aussi [323 euh] des actions qui sont immédiatement lancées {659} suite à l'agression {446} pour retrouver les auteurs de ces actes. {498}
10. Ils seront pourchassés {548} aussi longtemps que nécessaire pour qu'ils puissent être arrêtés {800} et traduits devant les juges et condamnés. {549}
11. La France [155 euh] {955} est aujourd'hui devant un choc. {755}
12. Un choc qui est celui d'un attentat car c'est un attentat {1037} terroriste. {537}
13. ça ne fait pas de doute, {1282} et par rapport [142 euh] {457} à un {528} journal qui avait été plusieurs menacés et qui était {585} justement protégé. {793}
14. Dans ces moments là il faut faire également bloc {1017} montrer que nous sommes un pays uni. {804}
15. Nous savons [182 euh] réagir {754} comme il convient, {530} c'est à dire avec fermeté {908} mais avec toujours le souci de l'unité nationale. {683}
16. Tel sera {635} mon comportement, {429} ma volonté tout au long [249 euh] de ces {224} prochaines jours et de ces prochaines semaines. {970}
17. J'aurai {574} une fois encore {581} à parler aux français {670} car [257 euh] {682} je l'avais dit nous

- sommes dans un moment extrêmement difficile, {432} plusieurs attentats terroristes avaient été {510} déjoués ces dernières semaines. {794}
18. Nous savions que nous étions [113 euh] {282} menacés comme {376} d'ailleurs [130 euh] {351} d'autre pays dans le monde. {959}
 19. Nous sommes menacés parce que nous sommes un pays de libertés. {509}
 20. Et parce que nous sommes un pays de libertés {468} nous conjurons des menaces {464} et nous [110 euh] {377} punirons {337} les agresseurs. {568}
 21. Personne {207} doit penser {708} qu'il peut agir {229} en france {464} contrairement aux principes de la république {412} et atteindre {273} l'esprit même de la république c'est à dire un journal {430} et je pense aujourd'hui {682} à ces victimes. {767}
 22. Onze personnes sont mortes, {563} quatre sont entre la vie et la mort. {608}
 23. Nous en sommes là {618} et {285} nous serons à coeur {518} de trouver des responsables {292} et d'appeler [177 euh] autant qu'il est possible {327} à l'unité nationale. {490}
 24. Merci.

ポーズのコーパス標記規則

- [xxx 123] フィラーの長さ (数字 : ms 単位)
 { 123 } ポーズの長さ (数字 : ms 単位)
 (xxx) 発話されなかった語、または聞きとることのできない語

(まつだ りさ/よう つる/つだ かおり/みずおち りこ/きだ つよし)